日本語指導を必要とする児童へのデイジー教科書の具体的活用事例

～誰一人取り残さない日本語指導を目指して～

船橋市立葛飾小学校
日本語指導担当教諭　萩原 裕美

令和8年（2026年）8月21日



デイジー教科書は、日本語指導を必要とする児童の『読む』を支え、『学ぶ』につなぐ

読むことに力を使い切る → **読む負担を軽くする** → 学習内容に向き合える

取り出し指導 ／ 在籍学級 ／ 家庭学習

児童が自分で学ぶための土台になる

本日の報告内容

0 葛飾小学校と日本語教室

1 学校全体での推進体制と配慮

2 取り出し指導・各教科での活用

3 児童に見られた変化

4 在籍学級・家庭との連携

船橋市立葛飾小学校

帰国・外国人児童教育との長い関わり

千葉県船橋市



1892年
開校

988名
全校児童

約27名
日本語教室を利用

取り出し指導
日本語教室で
個別・グループ指導

入り込み指導
在籍学級に入り
授業参加を支援

昭和62年　文部省指定帰国子女公開研究会

導入は、申請だけでは終わらない

1 校内で共有する

- 特別支援教育コーディネーターが中心となって申請を取りまとめる

日本語指導を必要とする児童にも有効な教材であることを校内で共有

2 保護者の理解を得る

- 翻訳資料・通訳を活用し、制度の趣旨を丁寧に説明

3 体験してから家庭へつなぐ

- 日本語教室で操作と効果を確認し、家庭学習へ展開

IDとパスワードを渡すだけにしない

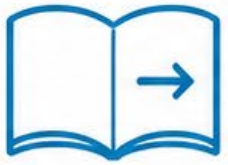
『聞く』から『自力で読む』まで

日本語教室での 個別指導でも、グループ指導でも、それぞれの速度で

1. 音声を聞く



2. 文字を追って読む



3. 必要なルビを書く



4. 読めたルビを消す



5. ルビなしで読む



定着後：ディクテーション　聞く→書く→確かめる

2 活用方法

「読むこと」から
「内容を考えること」へ

文字を読む負担を軽くする
↓
教科本来の学習に力を使える





社会・理科

専門用語・漢字を予習
概念や内容の理解に集中



算数

文章題を正しく読む
立式・自分で調べる行動へ



道徳・その他

音声＋挿絵で確認
自分の速度で内容を理解

事例A｜一字読みから文節読みへ

1 帰国時

- 低学年の途中で帰国
- 日常会話は可能
- ひらがなを一字ずつ読む
- 文章全体の理解が難しい



2 家庭での活用

- 約１年半継続
- 音声で流れを確認
- 音声に合わせて読む
- 難しい部分は速度を下げる
- 必要な箇所だけルビを書く
- 読めたルビを消す



3 変化へ



どのような変化が
起きたのか

『書くより、覚えたい』が学びを動かした

“なるべくルビを書かずに読みたい。
書くより、覚えたい。”

BEFORE

- 一字ずつ読む
- 読むことに力を使う
- 文章全体を捉えにくい
- 漢字の読みが定着しにくい

AFTER

- 文節でまとまりとして読む
- 少ない聞き取り回数で覚えられる
- 新出漢字の習得が早くなる
- 『読めた』という達成感



兵十がいなくなると、ごんは、ぴょいと草の中からとび出して、びくのそばへかけつけました。ちょいと、いたずらがしたくなったのです。ごんはびくの中の魚をつかみ出しては、はりきり網のかかっているところより下手の川の中を目がけて、ぽんぽんなげこみました。どの魚も、「とぼん」と音を立てながら、にごった水の中へもぐりこみました。

公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会　ホームページより
https://www.jsrpd.jp/

異なる出発点でも、同じ機能が学びを支えた

事例B｜高学年

来日時は日本語をほとんど理解できない状態

デイジー教科書で

- 速度を調整
- 繰り返し音読
- 全教科を予習・復習

成果

- 自然な発音・イントネーション
- 文節読み
- 学習機会の拡大

事例C｜低学年

ひらがなの読みと端末操作がまだ十分でない

音声を中心に

- 保護者と家庭で利用
- 読まれている文字を画面で確認

成果

- 音と文字が結び付く
- 漢字も「読めた」という自信
- 授業内容の理解



共通点｜同じ箇所を何度でも、自分に合った速度で確かめられる

「教えてもらう」から「自分で確かめる」へ

在籍学級では、デイジーだけで完結させない



デイジー教科書
読み方・予習・復習



人的支援

日本語指導担当教員・
日本語協力員の入り込み



翻訳機能

タブレットの
カメラ翻訳



意思疎通

自動翻訳機
（ポケトーク）

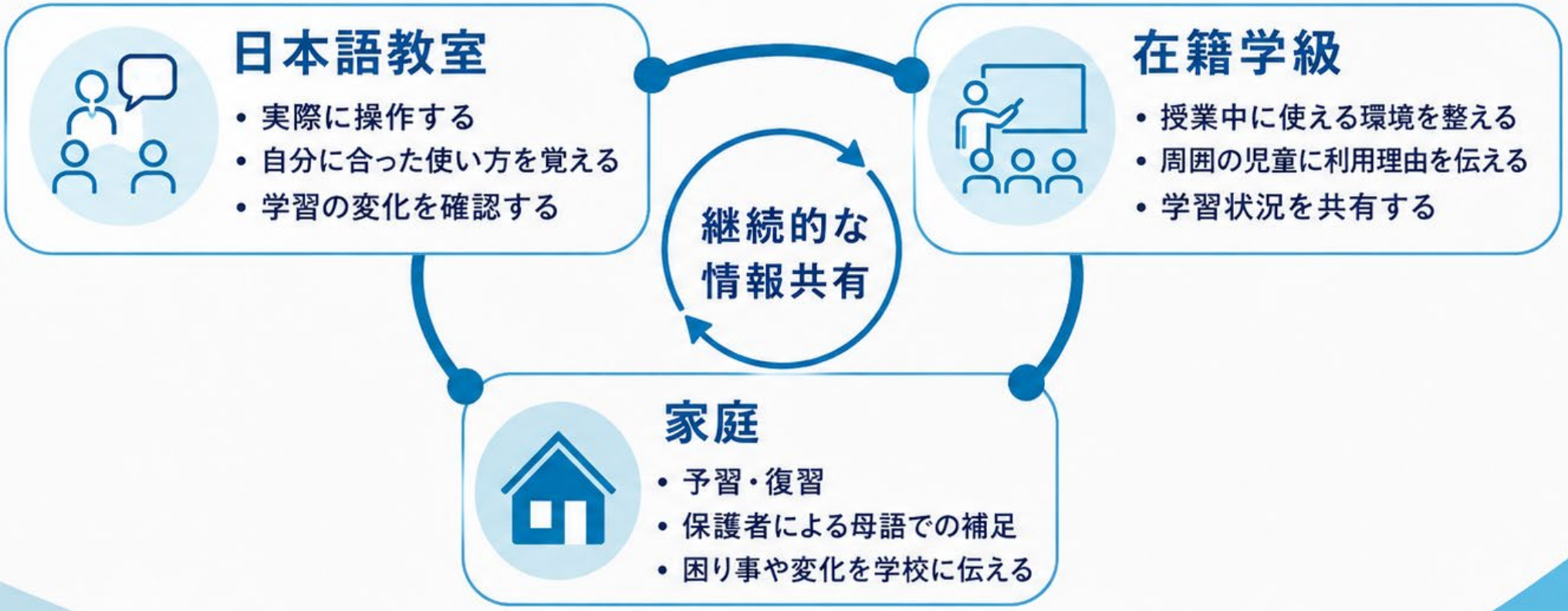


学級環境

担任・周囲の児童による
授業参加の支援

在籍学級の授業に参加する

デイジー教科書がつなぐ
日本語教室・在籍学級・家庭



使う場所がつながって、初めて継続した支援になる

デイジー教科書を
継続的な学びにつなげるために

1 不安に寄り添う



制度の趣旨と
活用方法を
丁寧に共有

2 学ぶ場所をつなぐ



取り出し指導
在籍学級
家庭学習

3 支援を組み合わせる



デイジー教科書
翻訳機能
人的支援

読む負担を下げ、教科本来の学びへ

デイジー教科書がつなぐ
『読める』の先に、
『自分で学べる』を。


日本語教室 ・

在籍学級 ・

家庭

誰一人取り残さない日本語指導へ